

福祉のまちづくり懇談会(H27.7.29 中里)ニュース

◆当日の振り返り

懇談会には11名が参加をしていただき「中里の困りごと・気になること」をグループごとに話し合いました。地域住民の方、福祉関係者の方など、様々な視点から意見の交換・発表をできたのではないのでしょうか。

◆地域の困りごと・気になること

各グループに分かれ、話し合いをしました。より多くでた意見を紹介します。

・【情報】…「どこに相談したらいいかわからない」「言いたいけど言えない」「本人が気づいていないけど心配な人がいる」など気になる方の相談先をどうしたらよいか困っているようです。また、災害時要援護者の仕組みなど当事者に必要な情報が行き届いていない状況もうかがえました。

・【近所との関係】…「隣近所同士のつながりがうすい」、「誰かと話したいけど話の合う人がいない」など近所とのつながりがないことに不安を感じている声も多くありました。

・【災害】…「避難場所」「中里エリアの水害はあるのか」「災害時に誰が助けてくれるのか」といった災害時の対応に不安を感じる声も多く「対応を身近な人と話し合いたい」という声もありました。

◆地域にほしい取り組み

これらの問題を踏まえて、あったらいいと思う取り組みを話し合い、「一人でもできそうなこと」、「何人かいればできそうなこと」、「地域全体で頑張ればできそうなこと」の3つに分類しました。

・【近所との関係づくり】として、「お年寄りの方と子どもたちが交流できる場があったらよい」「世代を超えた意見交換の場」など住民同士、世代を超えてのコミュニケーションを望む声が多くありました。

・【情報】には、「気軽に何でも相談ができる場所、人」「情報がわかりやすくまとまっているところ」などのアイデアが出されました。



◆次回の懇談会にむけて

参加者の方から福祉のまちづくりに向けて「まずは、身近な問題からやっていくしかない」と意見がありました。懇談会の今後の展開への期待の声もいただき、課題に対して地域全体で取り組むには継続的な取り組みが大切だと思われまます。今後もより多くの方に参加をしていただき、地域の方とともに住みやすい福祉のまちづくりを目指していきたいと思ひます。